

学校図書館との連携による学習支援プロジェクト 平成22年度の活動概要

公共図書館と学校図書館との連携協力の促進を目的として、教科学習に役立つ学習用ブックリストの作成・活用・評価を、研究者(プロジェクト主査)、教員(授業者)、学校図書館員(学校司書)、公共図書館員(国際子ども図書館職員がその役割を担当)の4者が協働する形で実施しました。実際の協働作業を通じて、ブックリストの作成手順や選書基準など、学習用ブックリストの効果的な作成・活用方法を探りました。

- 実施期間
平成22年12月～平成23年3月
- 対象学年
東京学芸大学附属竹早中学校 1年生(3学期)
- 対象教科単元
社会科地理「日本の諸地域調べ」
※教員による講義と組み合わせたグループ学習
- プロジェクト主査
鎌田和宏氏(帝京大学文学部 准教授)
- プロジェクト協力者
荒井正剛氏(東京学芸大学附属竹早中学校 社会科教諭)
岡島玲子氏(東京学芸大学附属竹早小・中学校 学校司書)



竹早中での打ち合わせ風景



2/26 フィードバック
ミーティングの様子



平成22年度における学習用ブックリストの作成

1. 授業者への授業構想インタビュー (研究者・公共図書館員) ⇒別紙「(参考-3)授業者への聞きどころ」
2. ブックリスト選書用のキーワード案作成 (公共図書館員) ⇒別紙「(参考-2)選書用キーワード」
3. 選書用キーワードの修正・確定 (教員) ⇒別紙「(参考-2)選書用キーワード」
4. 一次選書 (公共図書館員)
5. 一次選書結果の検討 (教員・研究者・学校図書館員・公共図書館員) ⇒別紙「(参考-1)授業者の選書基準と授業計画」
6. 二次選書 (学校図書館員・公共図書館員) ⇒別紙「(参考-3)授業者への聞きどころ」
7. 資料集め (学校図書館員)
8. 二次選書結果の検討 (教員・研究者・学校図書館員・研究者) ⇒別紙「(2)学習用ブックリスト」
9. (指導案作成) ※今回は行わず
10. 授業実践 (教員・学校図書館員)
11. 評価 (授業者・研究者・学校図書館員・公共図書館員) ※平成23年2月26日にフィードバックミーティングとして実施
⇒別紙「(参考-4)フィードバックミーティング紹介」



⇒上記作成手順の詳細は、別紙「(1)学習用ブックリスト作成手順」をご覧ください。

平成22年度の活動を通して～国際子ども図書館担当者が気付いたこと～

図書館の学習支援を、学校の教科学習に直接役立つものにするには・・・

- ・適切なブックリストや選書基準は、授業ごとに異なる。
- ・教員と公共図書館員・学校図書館員とでは、「調べ」の定義・範囲や選書のポイントが異なる。
⇒図書館側は、授業の方法を理解した上で、授業内容や授業者のニーズを的確に掴むことが大切。
⇒授業者へのインタビューや選書用キーワードが、効果的なブックリストを作成する上で重要となる。

平成23年度の活動では、効果的な授業者インタビューの方法等の検証を行っていく予定です。